

学校環境衛生検査表 (教室の空気)

学校長様

検査年月日	年	月	日	時刻	時	分	天候
教室名	構造	<input type="checkbox"/> 1.木造 <input type="checkbox"/> 2.RC		窓枠	<input type="checkbox"/> 1.サッシ <input type="checkbox"/> 2.その他		
教室の容積	間口	m ×	奥行	m ×	高さ	m =	m ³
暖房の状況	<input type="checkbox"/> 1.使用中 <input type="checkbox"/> 2.なし		暖房器具の種類				
換気扇	<input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 1. 使用 <input type="checkbox"/> 2. 不使用) ・ <input type="checkbox"/> 無						
在室人員	生徒	人	教職員	人	排気筒設備	<input type="checkbox"/> 1.あり <input type="checkbox"/> 2.なし	
検査項目	成績			判定基準			
温度	室内測定開始時		°C	17°C以上、28°C以下であることが望ましい。			
	室内測定終了時		°C				
	外気		°C				
相対湿度	室内		%	30~80%であることが望ましい。			
	二酸化炭素(CO ₂) ^{※1}		温度				
外気		%	°C	1500ppm(0.15%)以下であることが望ましい。			
()分後		%	°C				
窓の開閉状況		%	°C				
()分後		%	°C				
一酸化炭素(CO) ^{※2}	発生源	分後	ppm	10ppm以下であること。			
二酸化窒素(NO ₂) ^{※2}				0.06ppm以下であることが望ましい。			
浮遊粉塵 ^{※3}				0.10mg/m ³ 以下であること。			
気流 ^{※3}				0.5m/秒以下であることが望ましい。			
考察	<input type="checkbox"/> 1. 休憩時間に窓を全開し、授業開始時には外気に近い状態にすることが必要である。 <input type="checkbox"/> 2. 教室内の二酸化炭素(CO ₂)濃度が0.15%を超えているので、授業中は欄間を開放することが必要である。 <input type="checkbox"/> 3.						

※1 二酸化炭素濃度測定は、授業開始前から授業終了時まで継続的に行うことが望ましいが、測定回数を1回とする場合には、二酸化炭素濃度が高くなる授業終了直前に行うこと。

※2 燃焼器具を使用していない場合に限り、検査を省略することができる。

※3 必要と認める場合に検査を行う。

検査担当学校薬剤師氏名: